

## 序

北海道大学附属図書館には、北海道及び北方地域に関する資料を重点的に収集・管理するために北方資料室がおかれている。その資料は、本館が札幌農学校図書館とよばれていた時代から蓄積されてきたもので、内容も一般図書のほか文書・写本・地図・図類・写真・レコードなど多岐にわたっている。これらの資料がもっとも積極的に収集されたのは、全学的な研究機関として北方文化研究室（昭和12～42年）が本館の一隅におかれていた時代であろう。この時期には、北海道庁から『北海道史』及び『新撰北海道史』の編纂に用いた資料の一括寄託をうけ、また多くの篤志家によって貴重な資料が寄贈されたほか、今日では入手の困難な地図・写本・洋書などが意欲的に購入された。その後北方文化研究室が閉室する際に、本館は北方資料室を設けてその資料を引継ぎ、道庁資料も本館に永久寄託されたのである。

この目録には、以上のような経緯をへて収集されてきた北方資料のうち、地図・図類資料が収められている。これは主として北海道に関するものであるが、樺太・千島その他の北方図や日本地図、万国地図も含んでいる。それらのうちもっとも特色ある資料は、ほとんどが原図よりなる開拓使時代の地図と建築図面であろう。そのほか古地図、アイヌ絵等の絵画や書軸のなかにも珍しいものが少なくない。北方文化研究室では地図史の研究も行なわれたので、蝦夷地の古地図の収集はかなり系統的なものであった。そのなかには、本館が所蔵者から借用して巧みに模写したものも多数含まれている。それはもとより完全とはいえないにしても、日本北辺の地図発達の特徴を把握するには十分なものと思われる。明治以降の地図も、北海道の開拓の進展をよみとるに足る質と量をもっており、各時期の地形図集も非常によく揃っている。

上記の地図・図類は、これまでもいろいろな機会に紹介され、多くの出版物のなかで広く利用されてきた。しかしその全貌はこの目録によって始めて明らかになったということができない。もちろん編集期間の制約もあって不備な点も多々あることと思われるので、識者の御叱正を賜われれば幸いである。本館ではその他の北方資料についても引続き目録の刊行を準備しているが、この目録の作成を機会にこれらの資料に対する認識がさらに深められ、それらが学内外の研究者に一層広く活用されることを期待したい。

昭和56年2月

北海道大学附属図書館長

塩谷 饒

## 凡 例

1. この目録は、北海道大学附属図書館北方資料室に保管されている地図、図類等の目録である。その中には北海道および北方地域の地図のほか、日本地図、外国地図さらには書画、建築図面等も含まれている。本館の一般書庫に所蔵する同種の資料は割愛した。
2. 北海道、北方地域に関する地図については、北方資料室所蔵の図書資料のなかから折込地図を選択的に採録したものがあつた。
3. 地図は地域によって分類し、そのなかは刊行年（または成立年）の年代順に配列した。手書の未刊地図のうち成立年の不明なものは、推定年代によつた。
4. 記入事項は、文献番号・図名・著編者・出版地・出版者・出版年・版種・彩色・大きさ・装丁・註・内容・請求記号の順に記されている。手書図もしくは模写図にあつては、出版事項の代りに成立年を示した。（ここでいう成立年とはその図が最初にできた年代のことで、写図や複製の年代ではない）。
5. 図名には、後人によつて恣意的あるいは便宜的につけられたものが多いが、この目録ではそのままを記載した。それらのうち単なる仮題にすぎないものには〔 〕が、また本館において命名したものには図名の後に（仮称）が付されている。
6. 印刷の種類は、木版・銅版・石版に限り判別のできたもののみを記した。
7. 彩色は、手彩色のものを「彩色」、印刷のものを「色刷」として区別した。印刷図に手彩を加えたものはとくに「手彩色」と記したものがあつた。
8. 大きさは、地図そのものではなく、素材となつた紙の大きさを縦×横で示した。単位はセンチ・メートルである。図書の場合は高さのみを記した。
9. 地図・図類には類似の図名があつた、また図名から内容を推定できないものが多いので、〔註〕において特徴を簡単に記したものがあつた。図書資料から採録した地図にはその出典を示した。
10. 陸地測量部、国土地理院等の地形図集は末尾にまとめて掲載し、その体裁は国立国会図書館の地図目録になつた。
11. 索引は、図名索引と著編者索引を付した。著編者索引には、厳密な意味の著編者ではないが便宜的な手がかりとしてとられたものもある。
12. 漢字はなるべく当用漢字に改め、異体字や俗字等は統一することにしたが、時間不足のため完全は期しえなかつた。
13. この目録の編集は、秋月俊幸および吉田千萬があつた。